

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年4月）

《今月のトピックス》

- 梅毒が多く発生しています。20～30歳代の若い世代を中心に、幅広い年齢層で患者がみられます。
- インフルエンザの流行注意報は解除されました。A型が多く検出されています。
- 新型コロナウイルス感染症は緩やかな増加傾向です。引き続き今後の動向に注意が必要です。

◇ 全数把握の対象

＜4月期に報告された全数把握疾患＞

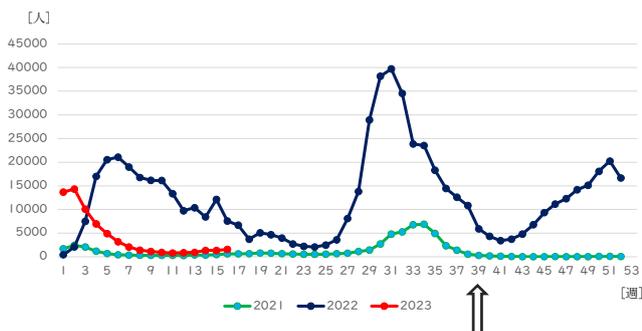
| | | | |
|--------------------|----|-----------------------|-----|
| 腸管出血性大腸菌感染症 | 5件 | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | 3件 |
| E型肝炎 | 2件 | 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む) | 2件 |
| デング熱 | 1件 | 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | 2件 |
| レジオネラ症 | 3件 | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 3件 |
| アメーバ赤痢 | 3件 | 水痘(入院例に限る) | 6件 |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 | 8件 | 梅毒 | 27件 |

- 腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～20歳代で、血清群O26が3件、O152が1件、O不明が1件です。いずれも感染経路等不明です。
- E型肝炎**:40歳代～60歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- デング熱**:40歳代で、蚊からの感染が疑われています。
- レジオネラ症**:40歳代～90歳代で、いずれも感染経路等は不明です。
- アメーバ赤痢**:50歳代～80歳代で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:50歳代～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:50歳代～80歳代で、血清群G群が2名、B群が1名です。創傷感染と推定される報告が2件、接触感染または創傷感染と推定される報告が1件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～60歳代で、いずれも性的接触(同性間)と推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症**:いずれも60歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回2件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 水痘(入院例に限る)**:20歳代～70歳代(ワクチン接種歴無1件、不明5件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が5件です。
- 梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者9件です。性的接触による感染と推定される報告が26件(異性間22件、同性間3件、詳細不明1件)、感染経路等不明の報告が1件ありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

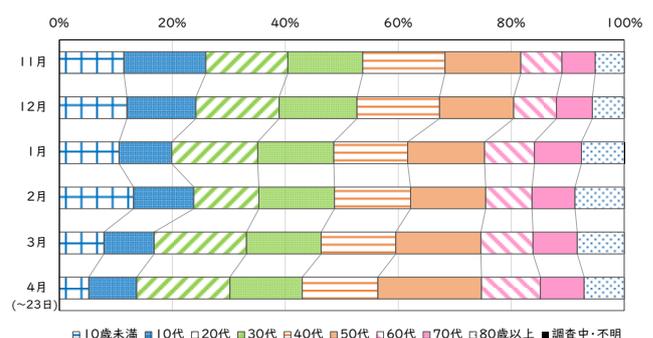
2023年第12週～第16週に横浜市から報道発表がありました症例は6,118件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>



1 報告数の推移

※ 2022年9月26日(第39週)より集計方法を変更しています(白抜き矢印)



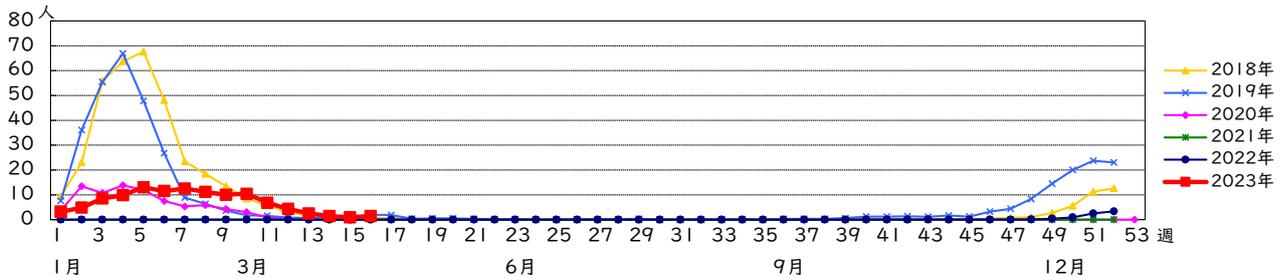
2 年齢層別患者割合

| 報告週対応表 | |
|--------|--------------|
| 第12週 | 3月20日～ 3月26日 |
| 第13週 | 3月27日～ 4月 2日 |
| 第14週 | 4月 3日～ 4月 9日 |
| 第15週 | 4月10日～ 4月16日 |
| 第16週 | 4月17日～ 4月23日 |

◇ 定点把握の対象

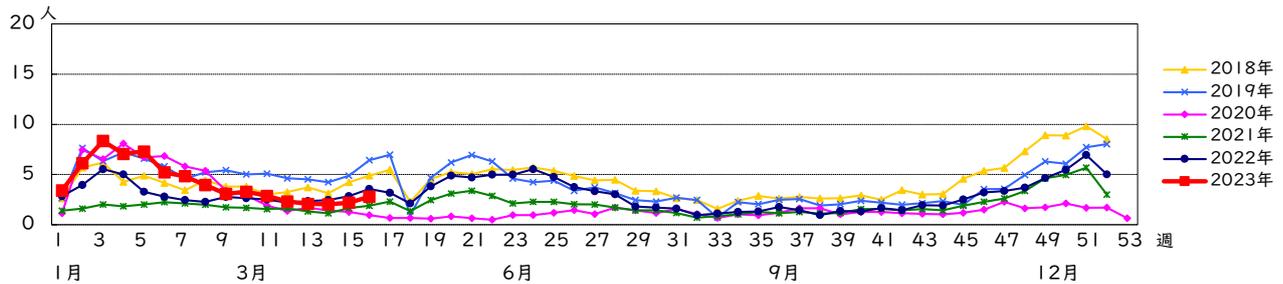
1 インフルエンザ:

2022年第46週以降増加し、第51週に流行開始の目安となる1.00を上回り、インフルエンザ流行期に入りました。2023年第5週(13.07)に流行注意報が発令され、第11週(6.87)に流行注意報が解除されました。第16週は1.48です。また、第16週までの市内学級閉鎖等は合計295件、患者数は3,487名です。今シーズンの市内迅速診断キットの累計結果は、A型98.9%、B型0.9%と、A・B型ともに陽性0.2%と、A型が多く検出されています。



2 感染性胃腸炎:

2023年第3週に8.33でピークに達しました。以降減少が続いていますが、第14週2.02、第15週2.19、第16週2.80と、微増しています。



3 性感染症(3月)

| | | | | | |
|------------|--------|--------|---------------|--------|--------|
| 性器クラミジア感染症 | 男性:32件 | 女性:17件 | 性器ヘルペスウイルス感染症 | 男性: 6件 | 女性:10件 |
| 尖圭コンジローマ | 男性: 7件 | 女性: 3件 | 淋菌感染症 | 男性:13件 | 女性: 2件 |

4 基幹定点週報

| | 第12週 | 第13週 | 第14週 | 第15週 | 第16週 |
|-------------------|------|------|------|------|------|
| 細菌性髄膜炎 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 無菌性髄膜炎 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| マイコプラズマ肺炎 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| クラミジア肺炎(オウム病を除く) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

5 基幹定点月報(3月)

| | | | |
|-------------------|-----|----------------|----|
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 17件 | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 0件 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 0件 | - | - |

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

4月期(2023年第12週～第16週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件、内科定点6件、基幹定点2件、定点外医療機関からは1件でした。

5月1日現在、表に示した各種ウイルスの分離15株と遺伝子17件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2023年第12週～第16週)

| 主な臨床症状 分離・検出ウイルス | イン フル エン ザ | 上 気 道 炎 | 下 気 道 炎 | そ の 他 |
|-----------------------|---------------------|------------------|------------------|-------------|
| インフルエンザウイルス AH1型pdm09 | 1 - | | | |
| インフルエンザウイルス AH3型 | 13 - | | | |
| アデノウイルス1型 | | | 1 - | |
| アデノウイルス型未同定 | | - 1 | | |
| ヒトパラインフルエンザウイルス3型 | | - 1 | | |
| ヒトパラインフルエンザウイルス4型 | | - 1 | - 1 | |
| RSウイルス | | | - 2 | |
| ヒトメタニューモウイルス | | - 1 | | |
| ヒトコロナウイルス NL63型 | | | | - 1 |
| 新型コロナウイルス | | | | - 1 |
| ライノウイルス | | - 5 | - 1 | - 1 |
| コクサッキーウイルスA4型 | | - 1 | | |
| 合 計 | 14 - | - 10 | 1 4 | - 3 |

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

4月期(2023年第12週～第16週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、溶血性レンサ球菌2件、サルモネラ属菌2件、黄色ブドウ球菌1件、真菌同定1件でした。非定点からの依頼は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、カルバペネム耐性シュードモナス属菌3件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性肺炎球菌2件、侵襲性インフルエンザ菌1件、大腸菌2件でした。

「分離同定」の検査依頼は、保健所からレジオネラ属菌4件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎・咽頭痛・気管支炎・発熱5件、腸炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2023年第12週～第16週)

| 菌株同定 | 項目 | 検体数 | 血清型等 | |
|-----------------|--------------------------|--|--|------------------------------------|
| 医療機関 | 基幹定点 | | | |
| | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 | 2 | <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1) | |
| | 溶血性レンサ球菌 | 2 | B群溶血性レンサ球菌 Ia型 (2) | |
| | サルモネラ属菌 | 2 | <i>Salmonella</i> Newport (2) | |
| | 黄色ブドウ球菌 | 1 | <i>Staphylococcus aureus</i> PVL+ (1) | |
| | 真菌同定 | 1 | <i>Cyberlindnera</i> sp. (1) | |
| | 非定点 | | | |
| | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(環境由来菌) | 6 | <i>Enterobacter cloacae</i> complex (5)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1) | |
| | カルバペネム耐性シュードモナス属菌(環境由来菌) | 3 | <i>Pseudomonas aeruginosa</i> (1)、 <i>Pseudomonas</i> sp. (2) | |
| | 保健所 | | | |
| 腸管出血性大腸菌 | 2 | O26 : H11 VT2 (1)、O152 : H7 VT2 (1) | | |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 | 4 | <i>Klebsiella aerogenes</i> (3)、 <i>Serratia marcescens</i> (1) | | |
| 劇症型溶血性レンサ球菌 | 2 | G群溶血性レンサ球菌 (1)、B群溶血性レンサ球菌 (1) | | |
| 侵襲性肺炎球菌 | 2 | <i>Streptococcus pneumoniae</i> 35F (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 24F (1) | | |
| 侵襲性インフルエンザ菌 | 1 | <i>Haemophilus influenzae</i> UT (1) | | |
| 大腸菌 | 2 | <i>Escherichia coli</i> (2) | | |
| 分離同定 | 材料 | 項目 | 検体数 | 同定、血清型等 |
| 保健所 | 喀痰 | レジオネラ属菌 | 4 | 培養陰性 (4) |
| 小児サーベイランス | 材料 | 臨床症状 | 検体数 | 同定、血清型等 |
| 小児科定点 | 咽頭ぬぐい液 | 咽頭炎、咽頭痛、気管支炎、発熱 | 5 | G群溶血性レンサ球菌 陽性 (1)、溶血性レンサ球菌 不検出 (4) |
| | 直腸ぬぐい | 腸炎 | 1 | 消化器系病原菌 陰性 (1) |